

独自理論開発で日本は世界の旗振りになれ!!! '09/4/12, 5/2,

もう景気回復の時代でない。一度死んで、再生だ！ー

ー(日本、米国?)は明日の経営雇用生活の“延命”を考えて巨額赤字財政出動、
だが**気候急変動危機**を真剣勝負すると、超再生の政治経済にならざろう得ない。

現政府筋は明日の経営雇用生活(選挙も)を考えて巨額赤字財政出動を計画中、だが下の情報でも判る通り経済玄人は将来の経営尻すばみと財政破綻を見越してる様だ。既成経済中核は**経済成長路線**だが、**気候急変動地獄化路線**でもある。更に先読みして生存保障と言うなら、**経済底打ち**に至る覚悟が必須、従来概念を超えた経済体制が.....

[1]: 状況証拠。

- (1)外資系ファンド、日本撤退相次ぐ 08年度、**買収総額6割減**(11日 09:24)
外資は外需強度依存の日本企業将来を見限りつあるのでは、
<<http://www.nikkei.co.jp/news/keizai/20090412AT2C0902B10042009.html>>
- (2)日銀、自己資本を増強 財務悪化に備え準備金積み増し(07:02)
日銀は緊急企業社債を直接に引き受けたが、焦げ付きを予想して準備金用意。
<<http://www.nikkei.co.jp/news/keizai/20090412AT2C1100911042009.html>>
- (3)個人向け国債、**販売額最低**に、4月分3200億円、**前环比36%減**(07:02)
「もう国債は危ない！」が一般国民富裕層にも判ったのだろう。
<<http://www.nikkei.co.jp/news/keizai/20090412AT3S1100M11042009.html>>
- (4)09年度一般会計、戦後初、**国債が税込上回る、巨額補正**で。4月10日毎日新聞
09年度当初予算の一般会計の総額は、過去最大の88兆5480億円。新規国債発行額は約33.3兆円で、今回の補正に伴う上積みによって43兆~44兆円程度になる。
<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20090410-00000001-maip-bus_al>
- (5)赤字国債増発の麻薬に手を出すのか自民党/2008年10月10日。
赤字国債増発という麻薬を打って一時的に元気になっても、それに依存しなければ体がもたなくなる「依存体質経済」にいずれ、陥ってしまうことは目に見えている。
<<http://shopworld.cocolog-nifty.com/blog/2008/10/post-7237.html>>
- (6)「自農自給」でなければ生きられない時代って。
経済の情勢が悪化し、企業も会社という入れ物を維持しようと給与を低く抑えているために、いまや食費を切り詰めなければ暮らしてゆけない人が増えている。農家は、自分たちで食べるものの心配はしなくて済む分、なんとか低収入でも暮らしてゆけるが都会の賃金労働者はそうはいかない。これからの時代、多くの人が自分の食べる食料を自分で作るという時代がやってくるのではないかと思えてならない。ようするに「自農自給」だ。
<http://blog.goo.ne.jp/miyacchi_z/e/987cf027337025d2c488c6df5aa85f17>

[2] : 理論的根拠。

(1)資本主義体制における**経済成長**の格段の意味 :

孤島の難破船員ロビンソン・カルソを想定しよう、最初は食糧採取だろう。難破船から利用できる機材等でまずは**住居等**を作り、畑を作って**食糧供給安定化**を達成、後は寝食以外はひたすら基本的に暇をもて余す。即ち「**経済成長を完成**」するとやる事が無くなる。

資本主義ではそれはヤバイとしてひたすら華美豪華へのモデルチェンジ=化粧直し**経済**を追求します(生産はエネルギー消耗と旧製品廃棄のゴミ増大と一対の**熱力学不可逆性**)。経済成長とは**需要増を見込んで供給増~設備投資(資本投下金融)**がある事です。**需要増**でなければならぬ事が味噌。**需要下降**では投資失敗で**金融連鎖破綻**が発生、それが米住宅バブル崩壊で終わったのです。そもそも永久なる成長などは有限世界では物理的にも無理、それは**市場&資源有限性**、今では超ゴミ CO2 が地球冷却阻害で熱化地球破滅が目前。

(2)**需要強度の概念による産業序列=景気依存強度産業序列 :**

<参考書:鈴木基司, 経済回路網力学, 時事問題解析工房, 1998>。

上書では(価格微分/商品購入額微分)の大小比較で需要強度の概念を提起。価格変動があっても購入量変化なしが需要強度大。極端だが本質的な孤島経済模型で、経済成長完成は暇=経営不振雇用喪失となった。では何が**最終産業**として残ったか、

{食糧, 電力エネルギー,} . 問題桃色破線部分産業は消耗需要的な**流通, 通信, 医療介護, 各種サービス-教育, 公務,** , 耐久財的な**建設製造業**, 後に並ぶ産業ほどに不況下では第一番に需要落ち込みがひどい事になる。経済成長後日本は最も脆弱な家電-自動車産業に依存したから世界最悪 GDP ダウン=13%になった。

(3)**耐久財産業は必ず成長(短期好況)と下降(長期不況化)の山下りが不可避 :**

カラTV, インタネット携帯電話、米住宅ブム登場では凄い好況に見舞われるが、必ず**市場有限性**から一度市場一巡がすむと後は**モデルチェンジ化粧直し小需要**に落ち込む。これが耐久財産業宿命である、即ち過去栄華の建設-製造業は一時の産業なのだ。関係者にすれば認めがたいがこれを認識しないで延命に拘るともっとひどい将来になる。

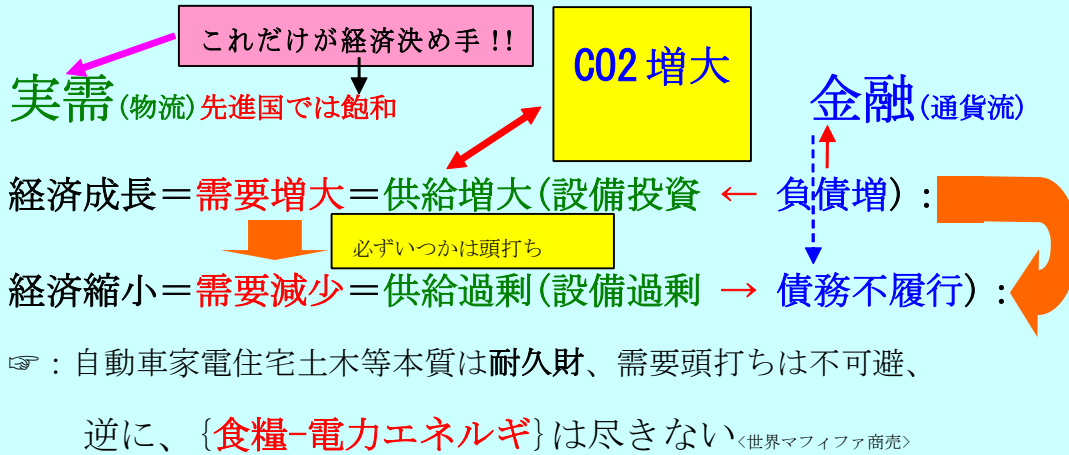
(4)**米国という世界経済牽引力消滅後の各国経済延命措置=各国の巨額財政出動の危うさ。**

世界経済牽引力とは米が一切の需要増を世界から引き受け、物を買ひ捲る、そこで海外諸国が得た利益を対米投資=米国人の大借金膨張での購入という図式成立、経済回路網論での厳密議論としても**成長とは負債増で成立、だが成長下降では必然的に債務不履行発生**。もう米国に替わって物を買ひ、借金をしてくれる**経済成長中央**を失った世界では長期不況は不可避と読むべきだろう。過去の生産過剰の整理縮小は不可避。あのトヨタすら2年赤字、これを無理やり忌避して企業延命を図るに財政出動すると莫大な赤字膨張と将来の企業淘汰と言う2重損害になる。今早く整理すれば人救済だけの財政出動小額ですむ。

[3]:GDP 縮小経済が一般に忌避される理由：

従来好況が一時の過剰消費なのであり、不況化では翻って必要生産量に調整するのは避けがたい。だが縮小経済は{金融破綻、所得減、税収減}で不況化を循環加速する。他方不況化での物価下落＝デフレ効果で所得減を補う要素があるので生活有利の要素にもなるが、負債はデフレでは実質増大<行政企業負債、住宅ローン問題>。下降経済は(外部)要因が働かない限り”底打ち”になるまで止まらない。例えば90年泡破綻と後の不毛10年、然るに巨額財政赤字での米軍事支出と詐欺債権での米住宅景気回復、並行する中国経済の大成長の外部要因＝外需が近年日本の景気再生要因といわれる。小渕内閣の100兆借金内需喚起策は成功せずに、失望の内に終わった事は記憶に新しい。

だがその米景気上昇要因(政府民間双方の巨額借金)こそが今回のより大きな破綻要因たる事が今では判るだろう。無理な経済成長の付けは必ず金融破綻と言う付けと一対である。



(1)金融0サム定理：通貨資産総額＝負債総額。

誰かの資産増は誰かの負債増が必ず並行、現実には負債を国家財政にしわ寄せするのが流行。全ての取引に置いて両者の通貨資産総額は不変。物の売買では買い手は減る、売り手は増えるがその値は取引額で同じ。金融ならば借手は現金増だが、同時に負債増で帳消し、貸手は現金減だが、債権増が同量で同じく不変。

中央銀行券発行は市中貸出先への債権獲得と印刷した紙幣量は自己負債。これも相殺。

(2)金融資本主義は自転車操業、自転車(経済成長)が停止すれば倒れる。金融自転車を更に無理(今の財政出動策)に推し進めるとCO2増大-生存資源環境破壊の破滅債務が待ってる。

(3)結論：現状先進国のやり方は国民の目先生活苦を餌に、将来破綻の先延ばしだけ。

確かに財政出動すればカンフル注射の期間限定的作用はあるだろう。しかしその先で再度また、より負債増大下での経済下降破綻が待ち受ける。要するにもう回復でなく、一度死んで再生と言う極めて世間受けしない方法が正解だろう。一度死なねばならない重大なる理由は以下通り。<これら議論は決定的で、詳細専門的に詰める必要あり>。

[4] : **メタン温度爆弾破滅予言と{食糧+電力エネルギー}+付帯産業+生活保護者群 :**

〈失業者の生活保障=生活保護者とは平時の兵隊と思えば良い〉

(1)生活保障の題目だけを言うなら住宅量は十分、後は{**食糧エネ+付帯産業**}だけに**全球**が特化する生き方しかない。その条件は半端でなく、**80%CO2削減**です。これを{オバマ, プーチン, 湖錦涛等の政権}が認めるか否かで**全球命運**は決定する。

(2)**北極海底メタン温度爆弾破滅予言 :**

以下では**生存保障**と言う題目を言う以上、**現実**にある北極海海底メタン温度大量爆弾を止める前提にして話を進めると、もう**全球温度を能動的に下げる 80%CO2削減の議論しか許容できないです**。メタン温度爆弾破滅予言に関しては以下をまずはとくと参照。特に **operation~RAMDAN** が関係参照 !!!。〈気候変動は非国内問題、英語でないと...〉

<http://www.geocities.jp/sqkh5981g/JAPAN.html/>

*22: 人類最後最強の天啓者ジュセリーノ氏の地球生存環境激変予言。

<http://www.geocities.jp/sqkh5981g/>

* 「The Emergency Report on the Global Thermalized Crisis」 .

*A civilization causing own extinction could be said up side down.

*The Global Surplus Heat is entirely flowing into Arctic (Part II).

*Possibilities of abrupt temperature rise at Methan Clathrate reserver in Arctic(Part3).

*Global Carbon Budget the reality.<**80%CO2削減の議論**>.

*Dear Death Penalty, but Innocent Planet Prisoners !!, 全貌が要約されてる。

*OPERATION THE GLOBAL RAMADAN.<**80%CO2削減での世界体制**>.

(3)**必要以外の経済はやらない**、必要総量分確保後は **分配作法** の次第です。

無理やり, 化粧直し公共事業や、清掃作業等に雇用するのは費用-効果の意味では最悪、彼らを生活保護者にした方が遥かに低経費-低炭素経済になる。とは言えど、彼らは**無料社会労働奉仕**や学集会、芸能集会等を多数用意してよりよく生活する。かくて**社会全体の労働供給-経費削減**に効果します。この経済は“**平和時の国民兵隊化**”に等価。

理屈として国内海外で食糧-エネルギーの総量を確保する生産は必須、行政教育医療福祉-サービス-、流通通信、化石燃料最低消費での商工業等の付帯産業では雇用は必然、このシミュレーション=**operation~RAMDAN** は極めて大規模になる。

[5]:日本の世界先導に期待する<真の革新は日本からでしか発信できない!!>。

率直に言えば、大概の日本人は振込み詐欺多発に見る様に、脳天気民族だろう。それでも一部日本人にはとんでもない発想と、とんでもない環境に生きるとんでもない人材がある事を発見するのが筆者の隠れた喜びだ。だが日本人だけが特別才能あるなどとは到底思わない、科学(芸術)に関心を持つと多国籍多民族-無偏見でなければやってられない。理由は明白だ、真理-真実真相(真善美)を語らせるに於いて誰であるかは全く無関係だからだ。それは個人技的世界でもある事情によるだろう。だが政治経済ばかりは個人技では到底すまない。どうしても背景の国家民族事情(その歴史性由縁)を抜きに議論は不可能だ。欧米は確かに近代民主主義発祥国にあるが、他方ではどっこい、根強く**世襲貴族-富豪階級**が生き延び、実は裏表支配にある。特に現代世界支配の主流背景にある米英は全く**エリート支配伝統**にある。日本も明治維新-日米敗戦占領でその**下請け**に強制された。その意味での戦後日本は天皇家を頂点とする英米型エリート支配世界だ。これは頑固で一見不動に見える。実は英国も日本以上に**貴族支配社会**、日本同様に大衆愚弄政策が徹底し、TVカメラ**警察監視社会体制**である。米国は実は多様な意見社会がある。外信を通じ紹介される米国の姿は一方的虚像の可能性が強い。米国はより進化した現代版**スマートナチス国家**(CIA-軍産複合体、スマートとは利口狡猾の意味)と他方で国家権力介入を忌み嫌う勢力が共存。しかも両者間では見えざる血みどろ闘争が進行してる模様だ。米国では欧州日本で言う左翼と言うのはその徹底した**反共教育宣伝**で形無し模様だ。だが皆無という事ではない、左翼代行が{**教会とリベラル**}に代表される思想方法。然るに今回の既成大資本に繋がらないオバマ登場はガンジとマーチンキング牧師の解放運動延長にあるだろう<一部評論では既成資本とのコネ指摘があるが、彼への投票は**ネット草の根運動成果**、これは過去米国史にない>。然るに**オバマ政権は地球存亡を決定してしまう命運**にある。筆者は30年前に米黒人ミュージシャンのとんでもない**予言**が今になって判った。それは気候変動破滅問題である<album, Marvin-Gaye, What's Going on>。だが**米国既成体制の呪縛**はすごい物であり、**閉塞状況的**な米国人には、逆に**外力**を期待してる要素が当然あるのだ。

然るに従来は欧米追随にあった日本がここ一番で**旗振り**できる可能性を思う様になった。日本人弱点長所としての**等質性**=みんなが平等が好きだと言う根性と、何でも良いものならば柔軟に受け入れる姿勢は、その**雪達磨式ころがし**方次第では、短時間で別体制に移行できる可能性を潜在してる。明治維新, 敗戦と池田所得倍増政策と経済成長での適応性は良くて悪くても**柔軟性**にある。それと教育の等質性で、ある程度の議論を大多数国民が一樣に理解できる事だ。この柔軟性と等質性こそが**短期間体制移行**を可能にできる要素だろう。その意味でこの**日本製**の筆者提示内容をよく詳細検討してあるべき方向性を**至急に**、しかも**大規模**にその**強力な大根拠**を検討修正-認識して戴きたい。特に将来の大危機感を持つ多数若手に期待。なほ筆者を教育教唆したのは見えざる長老賢人組織でもあろう。
*問題は**既得権益**にあると一転し、**頑固一途**になる事だ、その自覚が今こそ重大だ。

付録1 : 「教育費をタダにせよ」 2009年4月8日西野 弘

親の所得格差が生み出す教育格差は亡国への道:

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/manage/20090407/191216/?P=2>

注)赤字や赤線は筆者加工、

「教育費はタダ」。これだけが、スウェーデンの教育の特徴ではない。

- 1 幼児教育を大切にしており、就学前教育が手厚い。
- 2 日本の感覚では信じられないが、中学2年生まで成績表がない。さらに、塾や家庭教師というものは国のどこにも存在していない。それでも、教育全体のレベルは世界でもトップクラスである。
- 3 英語をはじめとした外国語能力が全体的に高い。小学生や中学生でも普通に話せる。
- 4 残業や部活動に忙殺される先生はほとんどいない。スポーツや趣味に参加したい生徒は、後述する地域の学習サークルに参加している。
- 5 1クラスの生徒数が少ない。就学前教育では先生1人につき生徒は6人。小学校から高校を見ても、1クラス20人前後である。
- 6 高校卒業後、すぐに大学に進学する学生はそれほど多くない。徴兵制度があるため、徴兵を済ませた後に、または企業に勤めた後、社会活動などを経験した後に大学に進学する人が多い。25歳以上で4年以上就職をして税金を支払った人だと、医学部のような特別な学部を除いて無条件（行く大学は高校の成績で決まる）で入学できる。
- 7 教科書は個人の所有物ではない。数年間は先輩から後輩に引き継がれ、毎年配布されることはない。ちなみに、日本は2008年度、教科書だけで395億円の予算を計上している。
- 8 ICT（情報通信技術）の活用がとても盛ん。家でもほとんどパソコンを使用している。教員に対するICT教育も重点的に行っている。
- 9 900万人の国民のうち、300万人が何らかの学習サークルなどの成人学習機関に参加している。学習サークルの運営は、約75%が税金で補助されている。

ざっと思いついただけでこれだけのことが思い浮かぶ。スウェーデンの教育の特徴はまだまだあるが、私たちの住む国とは相当に違うことが分かってもらえるのではないだろうか。

高福祉高負担という国の方向性を決めているのはスウェーデン人そのもの。スウェーデンの民主主義である。それを考えると、国民がどのような教育を受けているか、どのように責任ある行動をしているか、それが国の根幹を作っていると言えるだろう。

良い土壌には素晴らしい農作物が育つ。逆に言えば、痩せた土地には痩せた農作物しか育たない。ここで言う土壌とは国民のこと。この土壌を豊かにするのも、貧しくするのも

教育だ。スウェーデンのセーフティーネットは肥沃な土壌に実った果実。土壌が痩せた今の日本に、同じ仕組みを入れても意味がない。それでは、スウェーデンは肥沃な土壌を作るために、どのような教育をしているのだろうか。以下、細かく見ていこう。

幼少期に知的好奇心を植えつける

スウェーデンの特徴として、就学前教育の充実が挙げられる。共働き家庭がほとんどのため、幼い時から外の保育施設に預けられる子どもが多い。この保育施設での就学前教育を見ると、先生や保母1人に対して子ども6人と、かなり手厚く人員を配置している。

「スウェーデンモデル」の根幹にあるのは教育 もう1つ特徴的なのは、1歳から5歳の子どもを1つのグループにすること。様々な年齢の子どもたちが、大家族のような環境で活動を行う。その際、読み書きは基本的にあまり教えない。自然との触れ合いや人間への興味、グループ内での協調性、コミュニケーションなどを、遊びや野外活動を通して学習させる。

特に、野外活動は相当に熱心な印象を受けた。真冬でも、雨が降っていても、外で活動しているのを何度か目にした。こうして考えると、この時期の教育は読み書き能力というよりも、日本でも注目されている人間として必要なスキル、いわば人間学を教えることを重視している。まさに今、EQ（心の知能指数）やSQ（社会性の知能指数）を幼児期から大切にしているのではないか。

読み書きの方は学校に入学してから本格的に学ぶ。その頃になると、子どもたちはいろいろなことに興味を持ち始めているため、情報に渴望感を持ち始める。本などを自分から読みたいがために、読み書きは短期間で覚えていくという。子どもたちは幼少期に、知的好奇心をしっかりと植えつけられる。スウェーデンは生涯学習国家として広く知られている。学習サークルは3万以上、300万人が何らかの形で参加している。それも、幼少期の就学前教育と無縁ではないだろう。

生涯を通して学ぶ楽しさや学習がもたらす成果を共有

さらに、学ぶことへの渴望は雇用のセーフティーネットにも有効に機能している。スウェーデンは転職のための手厚い職業教育制度を持っている。90年代前半の経済危機の際も、今後の拡大が期待されたICT関連に職業教育の重点を移した。

この政策が機能したのも、スウェーデン人が学ぶことに対して、何の抵抗も持っていなかったからだ。「スウェーデンの国造りで教育は最も大切なこと。中でも、幼児教育の充実と成功が最も大切なことだ」。先日、駐日スウェーデン大使のステファン・ノレーン氏に会ったところ、やはりこう話していた。

スウェーデン国民は幼児期から学ぶ楽しさや、学習がもたらす成果を共有している。生涯にわたって学ぶことが人生の最も大切なことの1つだと理解している。

もちろん、スウェーデンにも落ちこぼれはいるし、いじめもある。非行や暴力などの問題も存在し、どこの学校も頭を悩ませている。実際、私が滞在していた70年代も自由尊重が行きすぎた結果、アルコールやたばこに始まる問題のある生徒が増えていた。だが、常に悩みながら、時代に合わせて変化してきた。

「学ぶ」ということについて、スウェーデンと日本には差があるように感じる。

学びを楽しめない日本の学生:

数年前に東大の学生たちの前で講師を務めた時、「勉強を楽しんでいる人」と尋ねたことがあった。すると、誰一人として、手を挙げた学生はいなかった。将来、日本を担うであろう最難関大学の学生が、人間の可能性を無限に広げる「学び」が好きでないという。この光景を見た時、日本の教育は基本的に何かが変わったのだ、と強く感じた。私自身、「勉強」とは「自ら勉めて強くなる」という意味と考えている。だが、日本の場合は「強いて勉めよ」。押しつけられたために、学びの面白さを忘れ、勉強が辛いだけのものになっているのではないか。「なぜ?」と考えなくなりつつあるのも、勉強が強いられたものになっていることと関係があるのではないか。スウェーデンの教育は問題解決型。とにかく子どもたちに考えさせる。それに対して、日本は教える側の先生が主役。常に解答を与える教育になっている。それを痛感した出来事があった。 >>次ページ1クラスの子どもの数を少なくし落ちこぼれを作らない

残りはwebsite直接リンクでお読みください。

ここでなぜ民主主義か? (筆者鈴木)。

組織利益最大を図るにおいてその指導者は門閥世襲等に関係なく、可能な限り広く真の現場実力公正評価で選ばれる必要がある。従ってその指導者育成基盤である大域国民生活保障と実力公正な評価の思想と実現制度、これが民主主義実利でしょう。

世襲族や東大官僚閥族は米国意向に沿って反民主主義を隠れてやってるのです。

付録2：世界公開を阻まれてる電力技術<電力もタダになる!!>:

(1)神と宇宙創始：<コラ-ンでは神は宇宙を無から創始とズバリ何度も説いてる>

筆者は量子重力力学とその“無からの宇宙創始論”に関与していた 1995 年，電子技術総合研究所猪俣氏から N マシンなる発電機の話聞いた。それは無から電力を作ると言うのだが、エネルギー保存法則に反するので当初は相手にしなかった。だが宇宙も厳密な量子力学的エネルギー保存法則に従い、無から創始される。この事情から見解を転向した。

$0 = +E$ (物質正エネルギー) $- E$ (重力場負エネルギー)。

ここで引力が負エネルギーである事が味噌で高校物理で判る。NS 極で吸着した磁石を引き剥がして無限距離に移動すれば全体は 0 エネルギー状態、然るに引き剥がす力は正エネルギー注入だから、初めが負エネ状態。無からの宇宙創始論理とは完全無とは無法則と同じ。何が起こっても良い**万能神仏世界**。しかし一度物質が発生すると物理法則(量子重力力学)に制約されるという仕組み。宇宙創生の極短時間 Δt では量子力学の不確定性原理が働いて、エネルギー値は $\Delta E = h$ (物理定数) / Δt だけ不確定性が許容される。即ち創生極短時間では突然の大規模エネルギー発生がありえた(ビッグバン), ただしその値が正值だと量子重力場基礎運動方程式の性質として流産宇宙で消滅無に戻る。逆に負値だと、事態経過として全体を 0 エネに戻さねばならないから相殺成分としての正エネルギー発生=**物質発生**=本物の宇宙創始という簡単な話だが、最初の負エネとは仮想状態的で通常の引力でない。量子力学では観測可能対象と非可能対象があり、**仮想状態**とは非可観測対象な存在。かくて物質はお札であり、重力場は中央銀行債権。中央銀行券印刷発行は自己負債。だから紙幣還流ではお札は中央銀行焼却処分初めて**0 決済**で成仏と言う次第。

(2)縦波電界波による発電法： **$0 = +E$ (正電力) $- E$ (重力場負エネルギー)**。

この筆者専門技術は既に当サイトでは日本語/英語で複数回記述で公開されてる。

<http://www.geocities.jp/sqkh5981g/Bwavegen.pdf>

要約すれば電磁場には携帯電話等で使用される電流駆動で横波性の(電)磁界波(A波)と、電荷駆動性の縦波性電荷密度波(電界波, スカラ-波, B波)の二姿態がある。A波は常識通りその放射に電力消費が伴うが、後者は**電力無用**、理由はアンテナが電荷を貯蔵する電力無消費のコンデンサと同作用する事が電磁気学で証明可能。しかも片端 0 電位接地での受信アンテナには電力発生がある<筆者も観測>。本技術は現代交流発電開祖, 20 世紀最大の電気工学者**N テスラ**の仕事に由来するが, 歴史的に米石油大資本と政府官憲-報道の陰謀で彼は抹殺されてる、もし世界公開にあるならば石油石炭無用で、現世界最大火急問題=気候急変動破滅問題はなかった事になる。この事情は現代においても一向に変わらないのだ。だからこの技術を見捨てる気候変動問題集団というのはまやかしの勢力かも知れない。筆者は**誘電体導波管**内部に電界波を閉じ込めて発電する安全な方法を提示してきたが、**材料調達資金**を欠き、現状は可能性のある国内企業複数に技術委譲を申し込んでる。

付録3：福岡正信氏の自然農法<タダとは言わないが革命的,.....>。

米国農務省は**第二ペンタゴン**と言われる。カーギル,ルイドレフュス、コンティネンタル・グレイン等の**大穀物商社は米国策企業**である。その周辺には影響力の大きい化学大企業モンサント、デュボン等が侍る。

<<http://blog.goo.ne.jp/coccolith/e/ada22eaaea2ef74a1f3e554411b4b1fa>>。

<<http://alternativereport1.seesaa.net/article/58170236.html>>。

現代農業技術に関して各国は準軍事力としてその{土壌、種子改良、肥料、除虫除草技術}等に関して徹底した研究開発がなされてる。ところが福岡氏の技術は全く逆の思想で如何に手間を抜いて**自然育成力促進**をだけを目論むかの**“逆転思想”**では全く革命的農法、だからネット等論評は注意深く読まねばならない<何故かって?、食糧価格は{種子と肥料}代と農業機材の費用が込み、生きる以上は全員出費です、何と言おうと確実に儲かる>。

筆者のうろ覚えでは、その基礎は種子を混ぜ込んだ**粘土団子**なる物を大地に撒く。後は自然育成力に任せ{無耕作,無肥料,無農薬}を追求(完全に無ではないが)、適合した{野菜-穀物-果樹}が多重混成で実ると言う仕掛け。だから**低価格**は間違いないだろう。彼の農法は海外で高評価され、**マグサイサイ賞**受賞、その書籍は英語等の翻訳もある。

<<http://www.47news.jp/CN/200808/CN2008081701000171.html>>

*福岡正信:(**自然農法**)**わら一本の革命**,春秋社,初版1975年,

***斉藤たかお**プロ, **ゴルゴ13(穀物戦争)**,...

ちなみに上記書は筆者本棚になければならないのだが!!!!、もう一つ何度やっても駄目な書籍検索で見つからない、相当以前に公共図書館貸し出しで読んだうろ覚えの農業経済学者の狩野氏(元民主党候補者?)の「**小農大国日本?**」、その趣旨は何も**大規模農業**でなくても、**ゲリラ的に、余る人力配置と小耕作地を多数結合すれば、日本は農大国**になれると言う農業経済学者の試論、これも逆転発想は強烈でした。筆者は蔓まきインゲンを長めの針金を立体多重格子配置<収穫には梯子が必要>にして<ジャックと豆の木の発想>、乗用車駐車面積で多収穫(微量ですが)を庭先で試みたが経験程度はあるが、農業には本来無関係者。